

杉山愛さん

[テニスプレイヤー]

学業とテニスを両立し、ジュニア時代から世界を舞台に活躍してきた杉山愛さんは、現役引退後、後進の指導に力を入れています。教えられる立場から教える立場へ。ご自身の経験をもとに、どんなことに留意しながら指導されているのか、伺ってみました。

先生に会うのが楽しみだった

テニスを始めたのは4歳の時。小学校時代は、学校が終わるとテニススクールに直行する毎日でした。すごく忙しい小学生で、時には学校を休みたいなど思ったこともあります。

でも、小学校4年生の時、担任の先生が大好きで、その先生に会いに行くのが楽しみでした。明るくて笑顔が素敵な方で、いつもニコニコしていた印象があります。お姉さんのようで、とても話しやすかったですし、休み時間もすぐに職員室に戻るのではなく、教室に残って私たちと過ごす時間を作ってくださったので、いろいろなことを話した記憶があります。

学校とテニスのバランスを取るのは大変でしたが、明るく、いいエネルギーを発している先生のおかげで、家を出るまでは辛くても、いったん登校すれば元気が出たのを覚えています。

人間力の基礎になる小学校時代

私が通っていた小学校はカトリック系の私立校で、宗教の時間がありました。当時は十分に理解できていなかったと思いますが、神様と対話するなど、自分を見つめる時間をもつことや人に感謝をすることの大切さなど、生きていくために必要なことをたくさん教えていただきました。そういう先生方のお話が、今の私のベースになっている気がします。

長年、海外を転戦してきて強く思うのは、世界のトップをめざすには、技術に加え、人間力が求められるという

こと。例えば柔軟性やコミュニケーション力、メンタル面の強さ、理解力などです。もっと基本的な部分では、食事の摂り方や身体のケアの仕方などが身につけていることも重要です。

中でも大切なのは、感謝の気持ちを忘れないことや、エネルギーの量を下げず、前向きな考え方をしていくこと。シンプルなことですが、意外に実行が難しいものです。

小学校はそういう生き方の基本を教わる場でもあるので、教師という仕事はとても重要で大変だと思います。でも、同時に、子どもたちの無限の可能性を引き出せる醍醐味もあるのではないのでしょうか。

調整を加える柔軟性が大切

私は今、年に数回、2泊3日の合宿形式で16歳以下の女子選手を指導しています。寝食を共にすると、それぞれの性格や考え方、抱えている問題がよくわかります。そこで、一人ひとりと向き合い、私なりに提案し、一緒に問題を解決していこうとしています。

その結果、短期間で大きく伸びる子もいれば、そうならない子もいます。でも、後者の場合でも、少しアプローチの仕方を変えることで結果が出ることもあります。

何が正解かは、やってみて初めてわかること。トライして、よかったら取り入れればいいし、失敗したら違う方向に進んでみればいい。躊躇してやらないのではなく、まずは一歩踏み出してみる事が大事だと思います。

もちろん、その前提として芯となる



ものをもつことは必要です。私には私の持ち味があり、どんな相手にも得手を生かした自分のテニスで勝負してきました。でも、相手や自分の調子によって作戦を変える必要もありました。その場に応じて少しずつ調整していく柔軟性は、何事においても必要だと思います。

教師は子どもたちを引っ張っていかなければいけない立場で、プレッシャーは大きいと思います。とはいえ、十人十色、その子にとって何が正解かはわかりません。だから、善かれと思ってやってみて、もし違っていたら、方向転換すればいいと思います。そう考えれば、少し気が楽になるのではないのでしょうか。

教師を「することを楽しもう」

私の好きな言葉は『遊戯三昧』。「^{ゆげさんまい}することを楽しむ」という意味です。小さい頃、食器を洗っている母がすごく楽しそうに見えて、よく「私にもやらせて」と代わってもらいました。ところが、やってみるとつまらない。あれは母のマジックだったのでしょか。母は本当に何をやっても楽しそうに見え、これが、どんな時も「することを楽しむ」私の原点になっています。

選手時代も、実際にはいつもよいことばかりではなく、むしろ大変な時のほうが多かったかもしれません。でも、それも含めて丸ごと楽しむように心がけてきました。だからこそ、長く現役を続けてこられたのだと思います。

先生たちにも、ぜひ、教師を「することの楽しさ」をもって、仕事にのぞんでほしいと思います。

PROFILE

すぎやま・あい ● 1975年神奈川県生まれ。4歳からテニスを始め、15歳で日本人初の世界ジュニアランキング1位になる。1992年にプロ転向。2003年、全仏オープンと全英オープンで女子ダブルス優勝を果たすなど、WTAツアーでシングルス6勝、ダブルス38勝。世界ランキングの最高位はシングルス8位、ダブルス1位。2009年10月、現役引退。ジュニア育成の「Road to Grand Slam」プロジェクトを始動したり、スポーツキャスターとしても活躍している。

何が正解かはわからない。
やってみてダメなら修正すればいい。